



方面総監統率方針
任務の完遂

発行所

〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1
電話：072-(728)0001

陸上自衛隊

中部方面総監部広報室

中部方面隊に約2,100名が入隊

平成と令和の架け橋となる入隊者が澁刺と教育を開始

桜満開の4月上旬、中部方面管内の各駐屯地において、一般曹候補生及び自衛官候補生約2,100名の入隊式が行われた。



真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちの自衛官候補生は、来賓・家族が参列する中、入隊式に臨み自衛官としての第一歩を踏み出した。

大津駐屯地（中部方面混成団）では、方面施策「女性自衛官採用促進プロジェクト」に基づく勤務環境の整備と教官等の教育態勢の確立により、昨年よりも多くの女性自衛官（約280名）が入隊した。

高校卒業後に入隊した拓凜音候補生は、「新たな元号となるこの時期に入隊できたことを誇りに思います。私たち自衛官に対する期待も更に大きくなる事を自覚し、この3カ月で心身を鍛え、必要な知識及び技能の修得に励み、自衛官として、社会人として強く成長したい」と決意を述べた。



姉を目標に入隊した中川候補生（姫路駐屯地）



宣誓を読む候補生（松山駐屯地）

林野火災（広島県呉市）

災害派遣

第13旅団（旅団長 山根将補）は、4月5日（金）午前7時、広島県呉市蒲刈町で発生した山林火災に対する、広島県知事からの災害派遣要請を受けた。第3飛行隊及び第13飛行隊のUH-1×2機、中部方面航空隊のCH-47×2機による118回（延べ590t）の空中消火活動により、鎮火に寄与し、同日午後6時3分広島県知事からの撤収要請を受けて、同活動を終了した。



CH-47による消火活動（県民の浜）



豚舎からの搬出



埋設位置までの搬出

災害派遣

豚コレラ（愛知県 瀬戸市・田原市）
（岐阜県 恵那市）

第10師団（師団長 鈴木陸将）は、愛知県瀬戸市・田原市、岐阜県恵那市で次々に発生した豚コレラに対する愛知・岐阜県知事からの災害派遣要請を受け、3月27日（水）から4月19日（金）までの間、計4回

にわたり養豚場での防疫活動（豚の追い出し、詰め込み等）の災害派遣活動を24時間3交代で実施した。

支援活動終了後、愛知県・岐阜県知事からの撤収要請を受け同活動を終了した。

平成30年度中部方面隊 ナンバーワン戦士

中部方面隊は、4月16日(火)、平成30年度方面隊ナンバーワン戦士を決定した。

ナンバーワン戦士とは、自衛官として任務を遂行するために必要な識能・技能に關し、中部方面隊で最も優秀な成績を獲得した隊員のことをいう。

対象期間は、平成30年4月から31年3月までの1年間。拳銃射撃(陸曹の部)、89式小銃射撃(陸曹・陸士の部)体力検定(陸曹・陸士の部)体力(陸曹・陸士の部)、語学力(陸曹・陸士の部)の区分で選考された。

平成最後の戦士を決定



9mm拳銃射撃(陸曹の部)第1位
第46普通科連隊 本部管理中隊
3等陸曹 東野 真也
(14発 128点)



89式小銃射撃(陸曹の部)第1位
第37普通科連隊 第5中隊
3等陸曹 松田 拓磨
(49点 F的命中10発)



89式小銃射撃(陸士の部)第1位
第37普通科連隊 第1中隊
陸士長 川満 りょう
(49点 F的命中10発)



TOEIC(陸曹の部) 第1位
第35普通科連隊 第3中隊
3等陸曹 田中 祥五
(965点/990点)



TOEIC(陸士の部) 第1位
中部方面管制気象隊基地隊
陸士長 土器手 梨花
(760点/990点)



体力検定(男子:陸曹の部)第1位
中部方面指揮所訓練支援隊
1等陸曹 栗宗 誠

腕立て伏せ	膝半屈腹筋	3000m
103回	86回	10分38秒



体力検定(男子:陸士の部)第1位
関西補給処 桂支処
陸士長 岡部 佑介

腕立て伏せ	膝半屈腹筋	3000m
101回	112回	9分42秒



体力検定(女子:陸曹の部)第1位
普通寺駐屯地業務隊
1等陸曹 原田 恵子

腕立て伏せ	膝半屈腹筋	3000m
65回	80回	12分51秒



体力検定(女子:陸士の部)第1位
第4施設団第307ダンプ中隊
1等陸士 廣澤 春菜

腕立て伏せ	膝半屈腹筋	3000m
57回	114回	12分16秒

方面隊連・群長等集合訓練

中部方面隊連(木)、伊丹駐屯地において、方面隊連・群長等集合訓練を実施した。

本訓練は、1佐職指揮官に対し、連・群長等としての職務遂行に必要な意識及び識能を向上させるため総監訓話、討議、総監部各教官教育、第一線救護訓練研修及び部外講師による講話が実施された。

総監訓話では、『修己治人』をテーマに「国を護るといふ事」「陸上自衛隊及び中部方面隊の現況を踏まえ、いかにリーダーシップを発揮するかについて」述べた。

また、部外講師を招いての講話では、第35代陸上幕僚長岡部俊哉氏が「精強な陸上自衛隊の



岡部元陸幕長による講話

育成について」と題し、陸上防衛力として本来保持すべき練度の維持向上、服務指導のあり方及び指揮官のあるべき姿などについて自己の体験談を踏まえ講話を行った。

連・群長等は、本訓練を通じて必要な資質及び識能を向上させた。

方面隊統制演習場春季集中整備

第4施設団(団長 小谷将補)は、4月17日(水)から25日(木)までの間、あいはら野演習場及び日本原演習場において「平成31年度方面隊統制演習場春季集中整備」を実施した。

演習場整備は、訓練基盤の維持・拡充を図ることを目的として年2回行う。今回の演習場整備では、人員約2,400名が参加し、各射場及び機動路整備等、37件の整備作業を実施した。

隊員は、自らを練成する絶好の機会と捉え積極的に取組み、日頃使用する訓練道場に感謝の意を込め演習場整備に臨んだ。

本訓練に初めて参加した若手隊員は、「広大な演習場整備に戸惑う事ばかりでしたが分隊長



戦車指揮台の階段構築(305施設隊)

の指揮のもと任務を完遂し、充実した整備期間を過ごすことができた」と述べた。

満開の桜で創立68周年を祝う

伊丹駐屯地（司令 木口将補）は、4月6日（土）、駐屯地創立68周年記念行事を満開の桜の下で実施した。

式では、協力者に対する日頃の感謝の意を表すため、駐屯地司令からの感謝状贈呈及び祝賀会食が行われた。

桜通りでは多くの出店が並び、自衛隊グッズなどを買い求める観客で賑わうとともに、イベント広場での音楽隊、太鼓隊による演奏披露により来場者を釘付けにした。

川西市から訪れた家族連れは、「毎年、この時期、駐屯地に花見に来るのを楽しみにしています。今年は桜も満開で満足です。何より、プロの音楽演奏が身近で聴けるのは最高です」と感想を述べてくれた。



聴衆を魅了した音楽演奏

共済組合支部長会議



総監訓示

中部方面総監支部は、4月23日（火）及び24日（水）、伊丹駐屯地において、29コ支部の支部長を参集して、平成31年度防衛省共済組合統括支部主催支部長会議を実施し、中部方面共済事業計画を周知徹底するとともに優秀支部施策等の情報共有を行なった。

総監は、「組合員の生活の安定と福祉の向上」「運用を支える業務の運営」「合規適正な業務遂行」の3点について訓示するとともに、各支部長に対し、「隊員目線に立つた創意ある共済事業の推進に、鋭意努力することを期待する」と述べた。

予科生40名が隊内生活を体験



宝塚音楽学校 107期生

中部方面通信群（群長 一戸1佐）は、4月16日（火）、伊丹駐屯地において、宝塚音楽学校に入学生した第107期生40人の予科生（※）に対する生活体験を支援した。

予科生は、基本教練を通じて、号令に基づく節度ある動作を身につけて訓練を終了した。

※宝塚音楽学校は2年制の学校。1年生は予科生、2年生は本科生という。

オピニオンリーダー委嘱終了・委嘱式



委嘱終了者

中部方面隊は、4月15日（月）、伊丹駐屯地において、平成29・30年度オピニオンリーダー委嘱終了式及び平成31・32年度オピニオンリーダー委嘱式を実施した。



委嘱者

総監は、終了者に謝意を述べ、委嘱者に対して自衛隊の活動に対する理解の促進と国民への情報発信を依頼し、出席者16名の方々に委嘱終了証・委嘱状を手渡した。

ふあみさぽ通信 (連載:第29回)

久居駐屯地業務隊



隊員家族と家族会・隊友会会員との顔合わせの様子

久居駐屯地業務隊は、関係部外団体等と連携した家族支援施策において、三重県自衛隊家族会・三重県隊友会の協力を得て、大規模災害発生時における家族支援態勢の確立を目的とし、本施策の実行性の向上に取り組んでいる。

昨年12月には、三重県自衛隊家族会・三重県隊友会・明野航空学校・久居駐屯地業務隊との4者会を開催した。会中において、三重県防衛専門監が「南海トラフ地震による三重県の被害予測」についての講演を実施するとともに、講演会後、被害予測をもとに担当地域の割り当てについて家族会・隊友会会員相互に膝を交えて話し合いを行い、大変有意義な機会となった。

また、本年1月には、複数の支援担当会員が安否確認支援を要望する他駐屯地所属隊員の家族の自宅まで、徒歩による経路確認を兼ねた顔合わせを実施した。今年度も更なる連携の強化を図るため、三重県自衛隊家族会・隊友会と密に調整を行い家族支援施策の実効性向上に努めていく所存である。



三重県庁防災専門監による講演会の様子

第10師団長 甲斐陸将離任



隊員に見送られる甲斐師団長

3月29日(金) 守山駐屯地(愛知県名古屋市中)において、中部方面総監立会のもと第32代第10師団長甲斐陸将の離任式が行われた。
甲斐陸将は、平成29年8月着任以降、強靱な師団の育成に尽力し、4月1日付をもつて約36年間の勤務を全うし離任(退官)された。



第35代蛭川幕僚長(離任)

3月29日(金)、第35代中部方面総監部幕僚長、蛭川陸将補は、約2年間の中部方面総監部勤務を終え、4月1日付で陸将に昇任。東北方面隊第6師団長に過日、着任した。

中部方面総監部幕僚長 離・着任

第10師団長 鈴木陸将着任



第33代鈴木師団長(着任)

4月2日(火) 守山駐屯地において、隷下部隊約670名が参列して第33代第10師団長鈴木陸将の着任式が挙行された。着任式では、統率方針「任務の完遂」要望事項「訓練精到」「思いやり」「地域とともに」について訓辞した。



第36代木口幕僚長(着任)

4月2日(火)、第36代中部方面総監部幕僚長、木口陸将補が着任した。
幕僚長要望事項「チームワークと風通し」出身は神奈川県。

CSMの提言



第3高射特科大隊 最先任上級曹長(姫路駐屯地) 准陸尉 稲田 宣弘

「ダイヤの原石」

平成31年4月。
いよいよ平成が幕を下ろす月でもある。記念すべき月の広報紙「飛鳥」に寄稿させていただくことを光栄に思っています。
4月、新しい隊員も入ってきたこの月の誕生石といえば皆さんもご存知のダイヤモンドです。「永遠の愛」、「清浄無垢」や「不屈」といった意味合いが込められているこの石は、とても強い石で世界一硬く、熱に対する耐久性も優れている。一方で弱点もあり、油が着きやすい性質、劈開性によりある方向に力が加わると割れる。また、ダイヤモンドをカットできるのはダイヤモンドのみである。
さて、総監をはじめ様々な方が「現場で活躍する部隊・隊員が宝である。」我が部隊長も「大隊の宝である隊員一人一人の力なくして任務は達成できない。」と言われている。その中で私は思う。宝である隊員はダイヤの原石ではないかと。すでに輝いている、輝きかけている隊員、まだ原石の隊員もいる。しっかりと磨けば美しく輝き、それなりの磨きでは輝きは半減してしまう。磨き方にも様々あり、自らが、部隊があるいは隊員同士が磨くことにより輝きを増していく。輝きは隊員に清らかで困難に挫けない心や矜持をもたせ立派に成長させる。
私のできる事は、上下左右、各中隊の先任と連携を図り、いろいろな角度から磨き方を助言し、汚れないよう割れないよう引き続き声を掛け続けていくことだと思ふ。新しく入ってくる隊員も磨けば輝く「ダイヤの原石」です。そういう気持ちで胸に一人一人に接し、堅く強い心と様々な困難も乗り越えられる忍耐力を持った隊員を創りあげたい。
自らもその光を輝き続けながら。

地本の子カラ

「それぞれの目標に向かって精進」
—井口さんが力強く決意—
自衛隊和歌山地方協力本部(本部長 防衛事務官 鍋田竜光)は、3月2日(土)、和歌山市民会館に於いて「和歌山県防衛協会」「和歌山県隊友会」「和歌山県自衛隊家族会」共催で「平成30年度和歌山県自衛隊入隊・入校予定者激励会」を実施した。
激励会では、入隊・入校予定者を壇上においての紹介、来賓からの祝辞、岩屋防衛大臣の激励ビデオメッセージなどが披露された。特に入隊・入校予定者の紹介においては壇上で一人ひとりが紹介され、各人が新たな決意を胸に誓った。引き続き、先輩隊員として駆けつけた第37普通科連隊の坊一輝陸士長が「同期は一生の宝、皆さんも同期を大切にし、自衛隊生活を充実させて下さい」と激励した。
また、主催3団体から激励品が贈られるとともに心温まる激励の言葉を頂戴した。最後に防衛大学校へ入校予定の井口遼平さんが、「私たちが今までお世話になった方々に感謝の気持ちを忘れることなく、それぞれの目標に向かって精進していきます」と力強く決意を述べた。和歌山地本は、今後も入隊・入校者と連絡を取りながら、不安等の解消に努めていく。

平成30年度 和歌山県自衛隊入隊・入校予定者激励



代表挨拶を述べる井口さん



入隊・入校予定者集合写真